

第3回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会 議事概要

日時 平成30年1月23日(火) 14:00~16:00

場所 浜松市役所 8階 全員協議会室

出席者 別紙のとおり



1 開会

2 委員長あいさつ

【委員長：静岡文化芸術大学 池上副学長】

- ・前回は9月11日にグループワーク方式を取り入れて行った。その後、10月30日に行われた三遠南信サミット2017in遠州では様々な立場の皆様から多くの建設的な意見が寄せられて、大変有意義な会であったと感じている。
- ・本日はそれらの意見を反映したものを確認いただくとともに、事務局からの新たな提案について、ご議論いただきたい。

[事務局からの確認]

本日の委員会は報道公開し、議事要旨についても公開するので、ご了承いただきたい。

3 議事（議事進行：委員長）

(1) 新ビジョンの地域連携の方針（案）について（事務局から説明）

【委員長】

基本方針の「風土」から「塩の道」という単語が削除されたが、「塩の道」を掲げて既に取組まれている観光施策などに影響はないだろうか。

【事務局】

三遠南信サミット「風土」分科会で、「塩の道」という単語がこの地域の文化の総称とは言えないのではないか、という意見があり反映したものである。影響については継続して考えていきたい。

【法政大学：高柳教授】

「塩の道」というのは具体的にどの部分を想定しているのか。

【事務局】

現行ビジョンの9ページに記述があり、かつては秋葉街道と三州街道が千石街道を通じて日本海へ至る道によって塩が運ばれたということから、この部分を「塩の道」として想定している。

【法政大学：高柳教授】

長野県から足助を通る現在の国道153号の道も「塩の道」と呼ばれることが多いが、これも含まれるのか。

【事務局】

大きな意味では含まれる。

【豊橋技術科学大学：大貝副学長】

三遠南信サミットの時点で、基本方針「山・住」にあった推進方針2「自然資源の循環利用の推進」に含まれる2つの主要施策は、それぞれ基本方針「技」、基本方針「風土」に整理をしたのだと思うが、それぞれの基本方針や主要施策の内容に変更はあるのか。

【事務局】

主要施策の名称は、なるべく理解のしやすい表現へと変更しているが、それぞれの中身や考え方自体に変更はない。

【豊橋技術科学大学：大貝副学長】

基本方針の主要施策にある、環境保全、移住定住、自然資源の活用は効果が見えづらいので取り組まれにくい。大学の役割として、このような分野で連携することでどのような効果があるのか研究することが必要だと思う。

(2) 新ビジョンの重点プロジェクト（案）について（事務局から説明）

【愛知大学：戸田教授】

ビジョンの大きな役割は、越境地域の取組みの方向性を示すということが1つ、具体的な取組みを生み出すことが1つである。後者について、通常の計画であれば県庁・市役所のように事業の主体がはっきりしているが、県境を越えるような地域連携ビジョンの場合、事業の主体が元々決まっているわけではない。そこで、細かな個別事業ではなくて、その集合体として大きなまとまりを重点プロジェクトとしており、その中で動ける個別事業から進めるのだと思う。また、どのような体制で重点プロジェクトを運営していくのか見えていない部分が多い。重点プロジェクトの体制と先導できる事業の2点について議論できれば良いと思う。

【豊橋技術科学大学：大貝副学長】

(1) 基本的考え方の③評価について、具体的な目標を掲げるのは難しいことは理解できるが、進捗状況を把握して共有する、というだけでは物足りないのではないか。全体の進捗を把握、共有したうえで、その次の取組みにつなげられるような仕組みがあるとよいと思う。

【事務局】

現行ビジョンでは3年ごとに評価を行うとされており、該当年の三遠南信サミットで報告をしてきた。新ビジョンでも、少なくともそれはやっていきたいと考えている。また、体制や評価については、次回か次々回の策定委員会で提案できればと考えている。

【豊橋技術科学大学：大貝副学長】

1年1回のサミットの場のみでの共有では少ないと感じており、ホームページに公開するなど頻繁に目に出来るようなものが良いと思う。今後検討してほしい。

【豊橋市：加藤課長】

地域連携の方針と重点プロジェクトとのつながりが分かりにくい。現行ビジョンのように、各重点プロジェクトが地域連携の方針のどの部分の達成のためにあるのか、ということを表記してはどうか。

【事務局】

今後、重点プロジェクトを精査する作業の中で、検討していきたい。

【豊橋商工会議所：星野専務理事】

現行ビジョンの表現や枠組みを見直すだけではなく、取組みや事業を具体化していくことを考えなければ次につながらない。どのように具体化するのか、ということをお皆で議論していくべきだと思う。具体化するには、地域一体となる取組だけでなく、細かな連携も視野にいれるべきだ。

また、ビジョンの全てを1つの主体が担うということは難しいが、1つの分野なら担うことができるという主体がそれぞれ自ら手を挙げる、という状況が理想的であると思う。

【愛知大学：戸田教授】

各分野を担う主体が手を挙げ、新ビジョンをそれぞれの主体が少しずつ受け持つという主旨のご発言があった。新ビジョンの（案）では、基本方針、推進方針、主要施策、重点プロジェクトと段階があるが、各主体はどのレベルで受け持つことができるとお考えか。

【豊橋商工会議所：星野専務理事】

例えば経済界として考える場合、基本方針「技」の主要施策を見ると、どれも経済界としても取り組まなければならないものであり、このレベルであれば受け持つことができると考えている。逆に活動イメージのような細かなレベルでは難しいと思う。

【磐田商工会議所：鈴木専務理事】

新ビジョンの重点プロジェクトは、文章をみただけだと地域の各主体は自らの取組みとどう結びつくのかが分かりづらい。参考資料にある「具体的事業一覧」を各重点プロジェクトに位置付けることで、既存の取組みを可視化することができるし、他の取組みを知ることで新たな連携が生まれる可能性もある。

例えば磐田市では軽トラ市が実施されているが、浜松市、湖西市、掛川市、新城市でも実施されており、連携の可能性があると考えている。

【事務局】

ご意見のあったように、各主体が自ら取り組める分野や事業を申し出してくれることは事務局としてもありがたい。

【豊橋技術科学大学：大貝副学長】

「住むなら三遠南信プロジェクト」にある、移住定住事業についてはすでに多くの市町村が各々取り組んでいるため、データベースを作成するなど、個々の取り組みをつなげることが必要だと思う。

「稼ぐ力強化プロジェクト」の活動イメージに、産学連携という考え方が含まれていない。

例えば、豊橋技術科学大学と飯田市の企業が共同研究を行うということはあまりやられていないが、今後必要になってくると思うので記述をお願いしたい。

【地域づくりサポートネット：山内代表理事】

三遠南信サミットで発言したサイクルツーリズムについてご報告する。日本列島を横断する塩の道自転車旅については、1回目の検討会を近日中に予定している。誰が取り組むかという事は未だ不透明だが、実現に向けて動き出しており、重点プロジェクトで位置づけることができればよいと思う。また、それ以外の活動としても浜名湖と渥美半島や中東遠地域のサイクルツーリズムと連携するなど、枠組みを広げていこうと考えている。

浜松市内の山間部と都市部の交流事業に取り組んでいる。この取組みを三遠南信地域に広げていけないかと考えている。

【豊橋商工会議所：星野専務理事】

この2年、日本全体で40万社の事業者が無くなっており、中小企業の事業継承は重要な課題となっている。今後の重点プロジェクトを検討していく中で、そのような時代背景を意識すべきである。

【飯田商工会議所：福澤専務理事】

星野専務理事が言われた事業継承については、農業を絡めることが必要だと思う。

先週飯田市で行われた「学輪 IIDA」で地域人教育の重要性が議論された。「人生100年時代プロジェクト」の中で高校生に焦点をあてることを検討してほしい。

(3) 今後のスケジュールについて

【愛知大学：戸田教授】

スケジュール表の一番下に「分科会」の開催時期は具体的に示されていないが、現時点でどの時期にどのように開催するかというイメージがあれば教えてほしい。

【事務局】

今後、重点プロジェクトの精査や具体的な事業を調査する中で、必要に応じ、可能な形式で開催できればと考えている。

4 その他

○三遠南信サミット後について

【委員長】

三遠南信サミットの後、参加された各団体の代表者が、サミットを受けてどう思ったかというコメントを事務局で整理しているか。

【事務局】

整理していない。

【地域づくりサポートネット：山内代表理事】

サイクルツーリズムは、三遠南信サミット直後に田原市長や豊橋商工会議所会頭から個別にお話があったため、見えていない部分でそれぞれやり取りがあるのではないかと。

【浜松商工会議所：小杉専務理事】

浜松商工会議所会頭からは、三遠南信では具体的に何をしているのか分からない、というコメントがあった。各主体が取り組んでいる既存事業を束ねて連携を可視化することが重要だと思う。

【委員長】

おそらく代表者それぞれ感じるところがあって、雑談などのレベルで発言はしていると思う。それを収集することができればさらに次につながると感じている。

○表現の修正等について

【地域づくりサポートネット：山内代表理事】

基本方針「道」の推進方針1の2つの主要施策の名称はどちらも整備ということが強く意識されているが、今後は整備された道をどう活用するかを考えるべきである。主要施策の末尾をそれぞれ「整備・活用」としてはどうか。

【磐田商工会議所：鈴木専務理事】

基本方針「道」の推進方針1の主要施策①の説明の中に、新東名やスマートインターチェンジに関する記述を加えてはどうか。

【地域づくりサポートネット：山内代表理事】

基本方針「風土」の推進方針2の主要施策①では、文化財の保全について記述されているが、活用や新たな価値を生み出さなければ保全ができないという現状がある。守るだけでなく、活用することを通じて保全するというような旨の記述もお願いしたい。

【委員長】

基本方針「人」の、推進方針2の主要施策②「社会参画の促進」は主語が分かりにくいので、「女性や高齢者等の」という表現を追加してみてもどうか。

【飯田商工会議所：福澤専務理事】

「中山間地が輝くプロジェクト」において、「高齢者対応型の」とあるが、高齢者だけでなく交通弱者が対象だと思うので、表現を変更した方がよいと思う。

○改元対応について

【事務局】

元号が変わることが発表されているため、西暦表記が基本となる。その場合、計画期間を2030年までとすると区切りが良いため、場合によっては計画期間再検討の可能性はある。

第3回 第2次三遠南信地域連携ビジョン策定委員会 出席者名簿

分類	団体	役職	氏名	備考
委員長	静岡文化芸術大学	副学長	池上 重弘	
委員	豊橋技術科学大学	副学長	大貝 彰	
委員	法政大学	教授	高柳 俊男	
委員	愛知大学	教授	戸田 敏行	
委員	浜松市	企画調整部長	山名 裕	
委員	御前崎市	企画政策課長	高田 和幸	代理
副委員長	豊橋市	政策企画課長	加藤 智久	代理
委員	田原市	企画課長	大羽 浩和	代理
委員	飯田市	総合政策部長	今村 和男	
委員	静岡県	知事戦略課 主査	中野 真樹子	代理
委員	愛知県	東三河総局 企画調整部長	矢野 浩二	
委員	浜松商工会議所	専務理事	小杉 和弘	
委員	磐田商工会議所	専務理事	鈴木 隆之	
委員	豊橋商工会議所	専務理事	星野 君夫	
委員	新城市商工会	事務局長	山本 政義	
副委員長	飯田商工会議所	専務理事	福澤 栄二	
委員	駒ヶ根商工会議所	専務理事	富永 満	
委員	地域づくりサポートネット	代表理事	山内 秀彦	
委員	三遠南信住民ネットワーク協議会	世話人	平川 雄一	

分類	団体	役職	氏名	
オブザーバー	浜松信用金庫	法人営業部 副部長	井口 浩利	
オブザーバー	豊橋信用金庫	理事・事業支援部長	渡邊 寛司	
オブザーバー	飯田信用金庫	地域サポート部長	大蔵 雅彦	
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局	広域計画課長	森山 幸司	
オブザーバー	国土交通省中部運輸局	交通政策部計画調整官	岩松 由洋	
オブザーバー	経済産業省関東経済産業局	地域経済部地域振興課長	工藤 浩一	
オブザーバー	経済産業省中部経済産業局	地域経済部地域振興課長	嶋田 明彦	
オブザーバー	農林水産省関東農政局	企画調整室長補佐	中村 浩一郎	
オブザーバー	農林水産省東海農政局	農村振興部農村計画課長	山方 正治	